

はしど



平成30年 1月31日
学校便り 第10号
練馬区立橋戸小学校
校長 河崎 晃二

<http://www.hashido-e.nerima-ky.ed.jp/>

☆学校教育目標 考える子・思いやりのある子・たくましい子

「考える力」と「自己肯定感」を育む

校長 河崎 晃二

2月4日は立春。暦の上では春になりますが、まだまだ厳しい寒さが続きます。また、年末からインフルエンザが流行し、区内でも学級閉鎖になった小・中学校が何校かあります。橋戸小でもインフルエンザで休む児童が増え、3学級が学級閉鎖となりました。「うがい、手洗い、換気」を励行し、これ以上増えないよう予防に心がけさせたいと考えております。

さて、話は変わりますが、ある大学の教授が「子供の『考える力』と『自己肯定感』」について興味深い事を述べていたので、皆様にご紹介します。

小学生の頃、不登校だったという学生が、私の講座に参加したことがありました。最終的に、学校生活に戻ることができたようですが、それは、親がそっとしておいてくれたからだと言います。しかし、不登校になった当初は、そうではありませんでした。「もし、自分で言いにくいことがあるのなら、先生や友達に親から話してあげるよ」「この本を読んだら、元気になって学校に行けるかもしれないよ」などと言われると、そのたびに「自分はダメな子なんだ」と落ち込んだそうです。「こうしたら」「こうしなさい」と言われることで、よけいにどうしたらいいのか混乱したと言います。

よかれと思って、手や口を出してきたことが、子供の「考える力」や「自己肯定感」を奪っているとしたら、それはとても罪深いことです。

一方で、素晴らしく意欲的だなと感じる大学生にも出会います。いったい、どんな

ご家庭だったのかと質問すると、必ず返ってくる答えがあります。

それは、「勉強しなさいと言われたことは一度もない」です。これはもう、判で押したように共通しています。だからと言って勉強しなかったという人は一人もいませんでした。自分で計画を立て、自発的に勉強してきたという人ばかりです。

とりわけ、明朗でプラス思考の学生言葉は印象的です。その学生は「うちの親は、『あなたはどうしたい?』といつも聞いてきました。『友達が塾に行くから、私も行ったほうがいいかな?』と聞いたら、逆に、『あなたはどうしたい?』と聞くし、小学生の頃、学校に着ていく服も、1年生の頃から『あなたはどうしたい?』と私に選ばせていました。」と言っていました。

子供の頃から、自分で考え、自分で決めて、行動してきた人は、気持ちよいほど、前向きです。「自分で考え、自分でできた」体験を積み重ねていますので、何か困難なことに出合っても、「きっと、自分ならなんとか乗り越えられる」と考えます。これは、素晴らしい「自己肯定感」です。

先日、橋戸小に来ていただいた、ロンドンオリンピック金メダリストの米満達弘選手も同じことを話されていました。自分で、どうしたら「自分を高める」ことができるのかを自分で考え、工夫し、自分の立てた目標を一つずつ達成していったということでした。

※ 先月「1, 1, 5, 8,」の答え $8 \div (1 - 1 \div 5)$